幼稚園唱歌集
全
真野藏

文部省音樂取調掛
編纂

幼稚園唱歌集

全

緒言

一　本編ハ、兒童ノ、始メテ幼稚園ニ入リ、他人ト交遊スル當リテ、嬉戯唱歌ノ、如何ニ、有益ナルカヲ、考ヘ、且ツ、幼徳ヲ涵養シ、及ビ、セシガ為ニ、用フベキ歌曲ヲ纂輯シタルモノナリ。

一　唱歌ハ、自然幼稚ノ性情ヲ養ヒ、其發聲ノ節度ニ慣レシムルヲ要スルモノナレバ、疎ニ幼稚園ニ於テ可ラ

ズ。諸種ノ園藝ノ如キモ、亦音樂ノ力ヲ假ルニ非レバ、千分ノ効ヲ奏スルヿ能ハザルモノナリ。

一

幼稚園ノ唱歌ハ、殊ニ拍子ト調子トニ注意セザル可ラズ。拍子ノ、緩徐ニ失スル片ハ、活潑爽快ノ精神ヲ損シ、調子ノ高低、其度ヲ失スル片ハ、當ニ音聲ノ發達ヲ害スルノミナラズ、幼稚ノ性情ニ厭惡ヲ釀シ、其開暢ヲ妨グル恐レアリ。故ニ本編ノ歌曲ハ、其撰定ニアタリ、特ニ此等ノ要旨ニ注意セリ。

一

幼稚園ニハ、篳胡弓、若クハ洋琴、風琴ノ如キ樂器ヲ備ヘテ、幼稚ノ唱歌ニ協奏スルヲ要ス。是レ樂器ニヨリテ、唱和ノ勢力ヲ增シ、深ク幼心ヲ感動セシムルノ力アルヲ以テナリ。

明治十六年七月

眞明社藏書

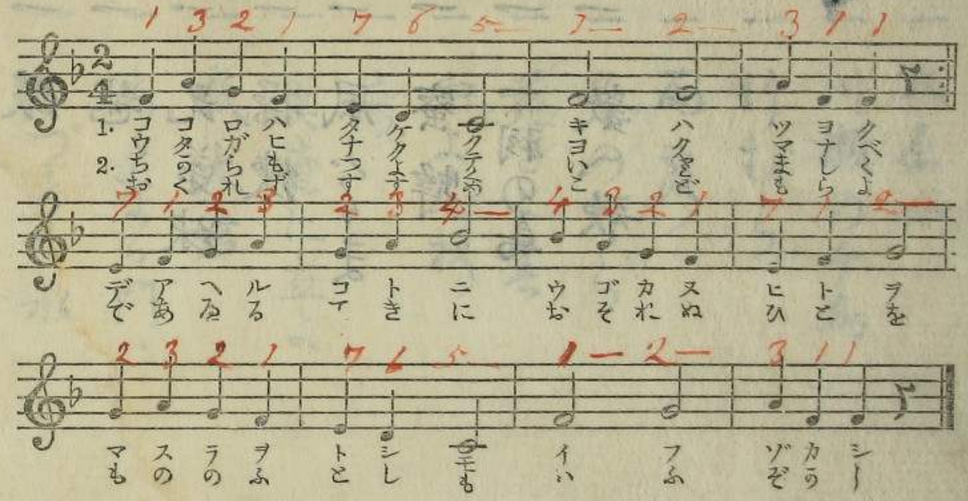
幼稚園唱歌集

目次

心は猛く

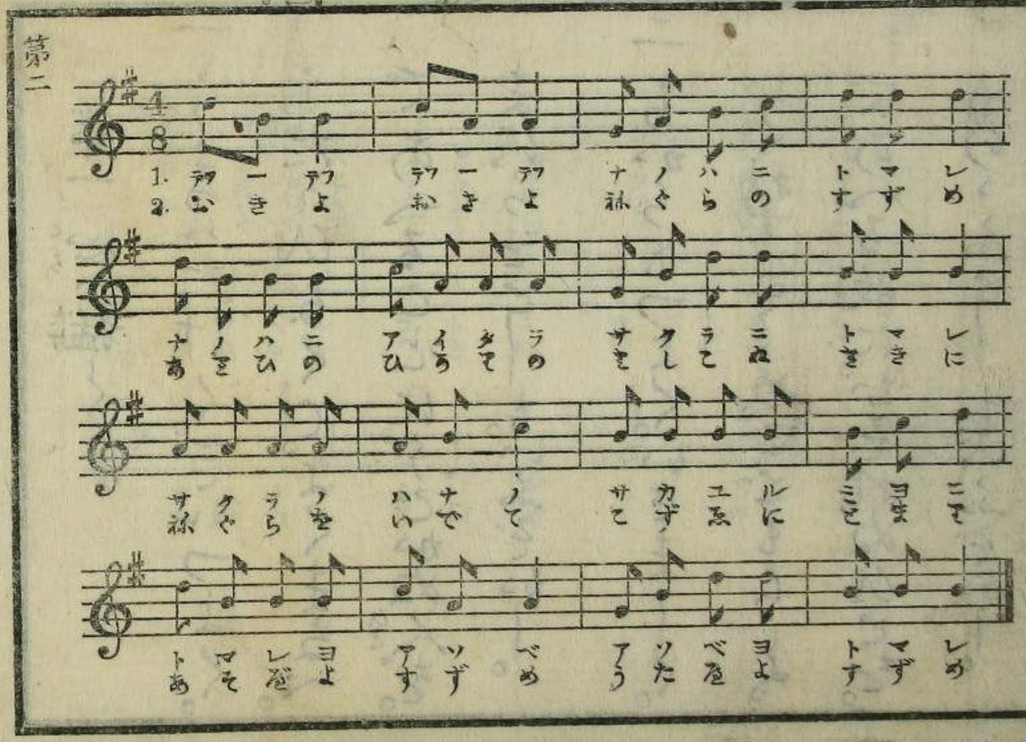
一 隊々
一 進めく
一 雲の雷の
一 學べよ
一 にぎわる
一 友ぶち
一 子供く
一 若き

一大原女
一川瀬の千鳥
一竹むら
一雨雫
一冬のそら
一花さく春
一やよ花摘ん
一燕
一真直に立よ
一我大君
一さくなる門
一うづまく水

一環
一毬
一兄弟妹
一操練
一風ぐるま
一蜜蜂
一一羽の鳥
一數へ歌

第一　心ハ猛(たけ)く

一、こゝろ猛(たけ)く　強(つよ)く。
うたがひなくて。よくまもるべ。
であへることに。うごかぬ人(ひと)を。
まもらをそーも。ふぞかー。

二、ちからもつよく。いさましく。
おくれずすゝめ。こゞもらよ。
であへる敵(てき)に。おそれぬひとを。
ものゝふとーも。ふぞかー。

第二

第二　蝶々（てふてふ）

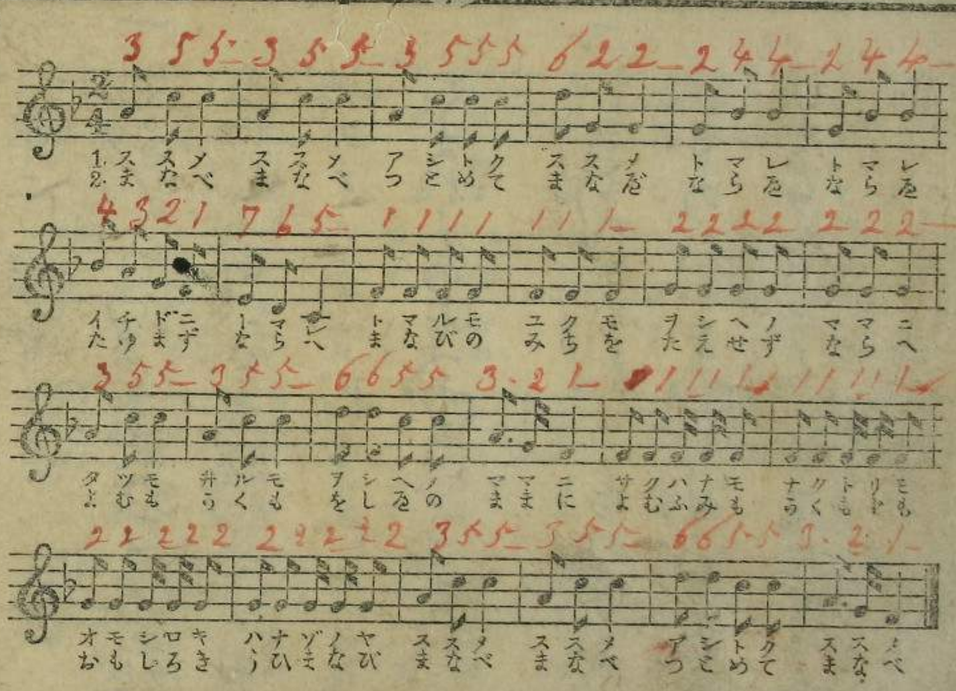
一てふ〳〵てふ〳〵菜（な）のたにとまれ。
ちのはふあいさら。櫻（さくら）にとまれ。
櫻のもちのさかゆるみよう。
とまれよあそべあそべとまれ。

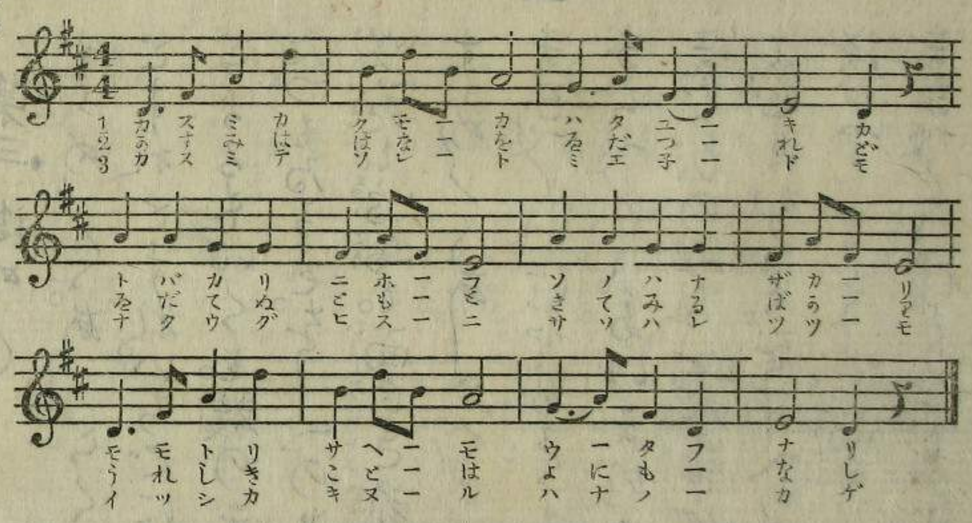
二おさよ〳〵ねぐらせすゞめ。
朝日（あさひ）のひかりのぱっとぬさたよ。
ねぐらをいでゝこずゑにとまり。
あそべよすゞめうたへよすゞめ。

第三　進めく

一　すゝめ〳〵あ〳〵こくすゝめ。
こまれこまれいちごにこまれ。
こまるもゆくも教のまゝに。
たつもゐるをも一へのまゝに。
咲の花も鳴る鳥も面白き花園や。
すゝめ〳〵あ〳〵こくすゝめ。

二　まち〳〵ぴたりとまちくまちべ。
ちらへ〳〵ぐるりとまちくまちべ。
まなびのみちをたえずたゆまず。
よむもかくるもをゝへのまゝに。
淡むふでも書そんじも面白き初学び。
まち〳〵ぴたりとまちくまちべ。

第三

第四



第四　霞う雲う雪こう。

一

かすみこの雲うう雪こう。
こばうにふるその花ざかり。
もゝこりさへもゝたふちり。

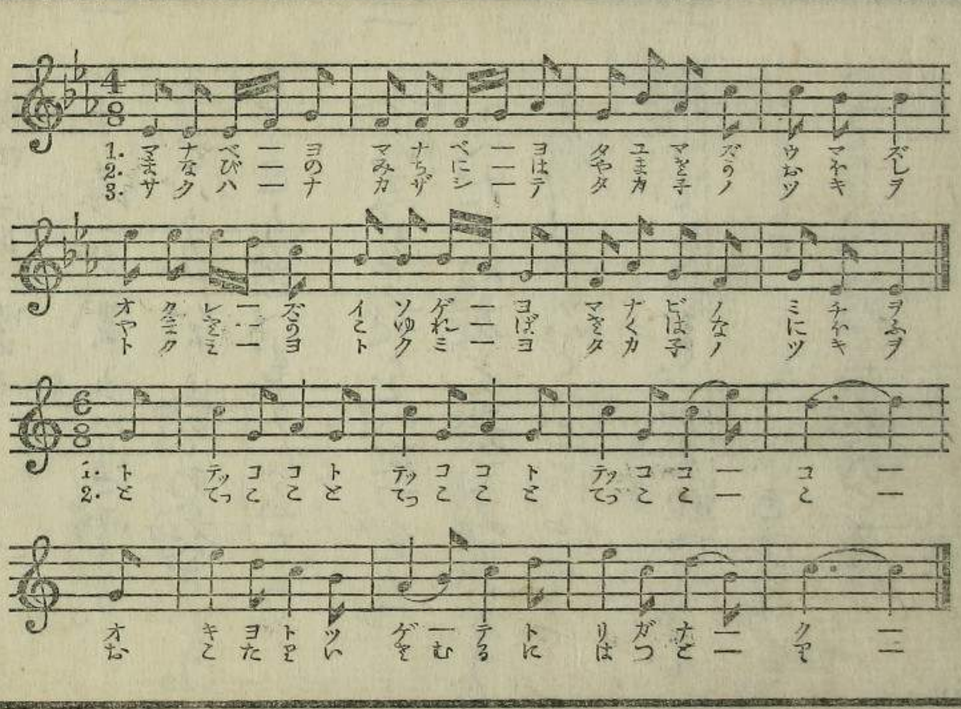
二

このみを花をへだつをど。
へだてぬ友と来てみるばう。
うれしさおとはよふもり。

三

霞こてそれと。みえねごと。
さく寓にさそはをゝを。
いつしか来ぬる。花のこゝげ。

第五



第六

第五　學べよ

一學べよ〳〵。だいまびうびを。
おくれずいそげよ。よおびの道を。

二まちびの道ふハやまさかおゐし。
山さかこゆをバ。ちく花にゑふ。

三ちく花かざーて。たうねの月を。
とく見よとく見よ。高根の月を。

第六　にそつ島

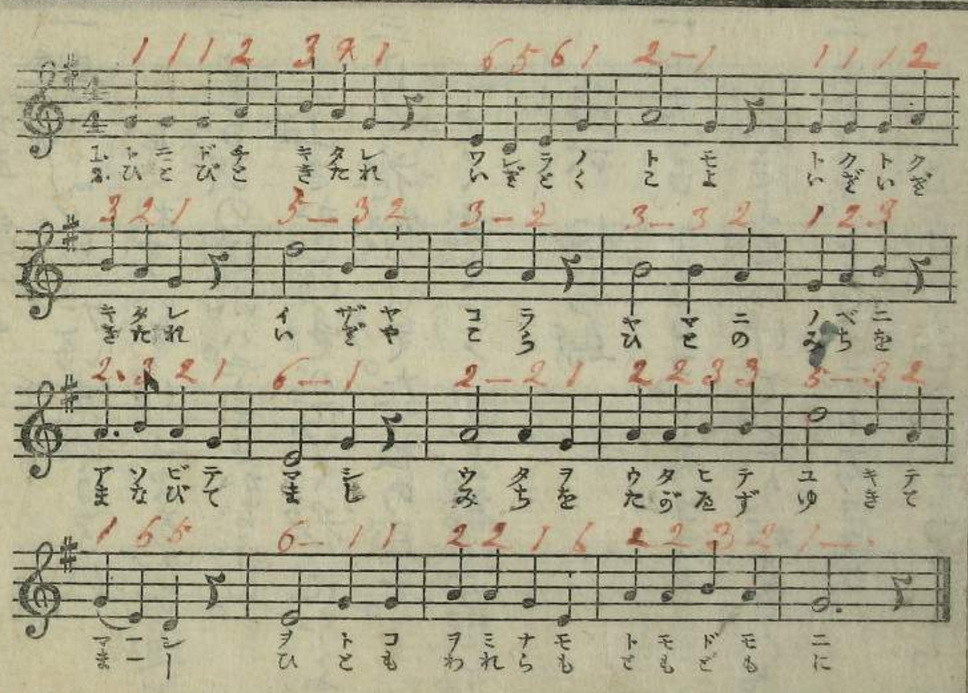
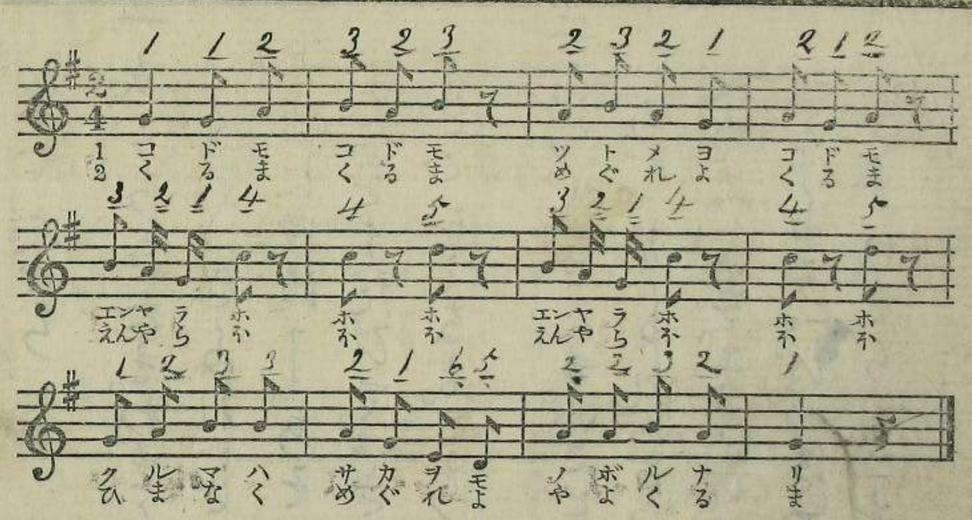
一トテッココ。トテッココ。トテッココ。
むさよとつげて。こりがなく。

二トテッココ。トテッココ。トテッココ。
おこたりいさむる。にそつこり。

第七　友ごち

一　友ごちきたそわきらのさと。
こくこきふれいざやこころ。
やまにゆこう。あそびてまう。
うたをうたひてゆきてまう。
をここをこもこともぐに。

二　ひとこきたそわきらのさと。
いここきふれいざやこころ。
人のみちをまなびてまう。
道をこもこのこびゆきてはー。
ひともわきらのさとよ。

第七

第八

第八　子供（こども）つくし

一さいぐもぐ。つくしめよさごと。つくしめよさごと。

エンヤラホホホ。エンヤラホホホ。エンヤラホホホ。

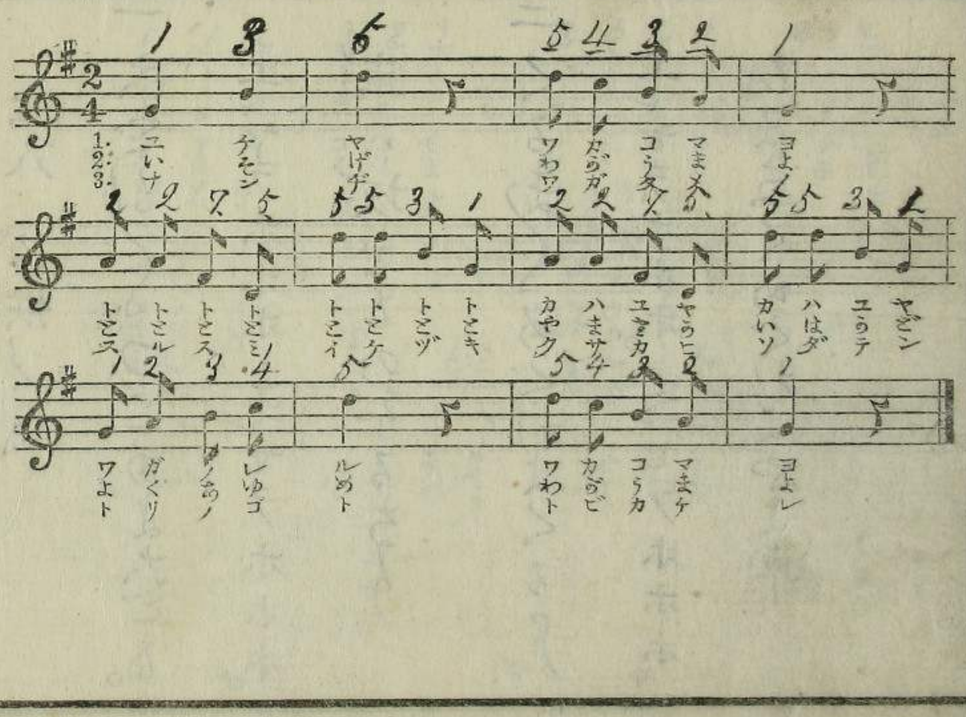
車（くるま）ハ坂（さか）をも。のぼるもり。

二くろまぐ。めぐれよくるア。

エンヤラホホホ。エンヤラホホホ。エンヤラホホホ。

ひまもくめぐれよ。やよ車（くるま）。

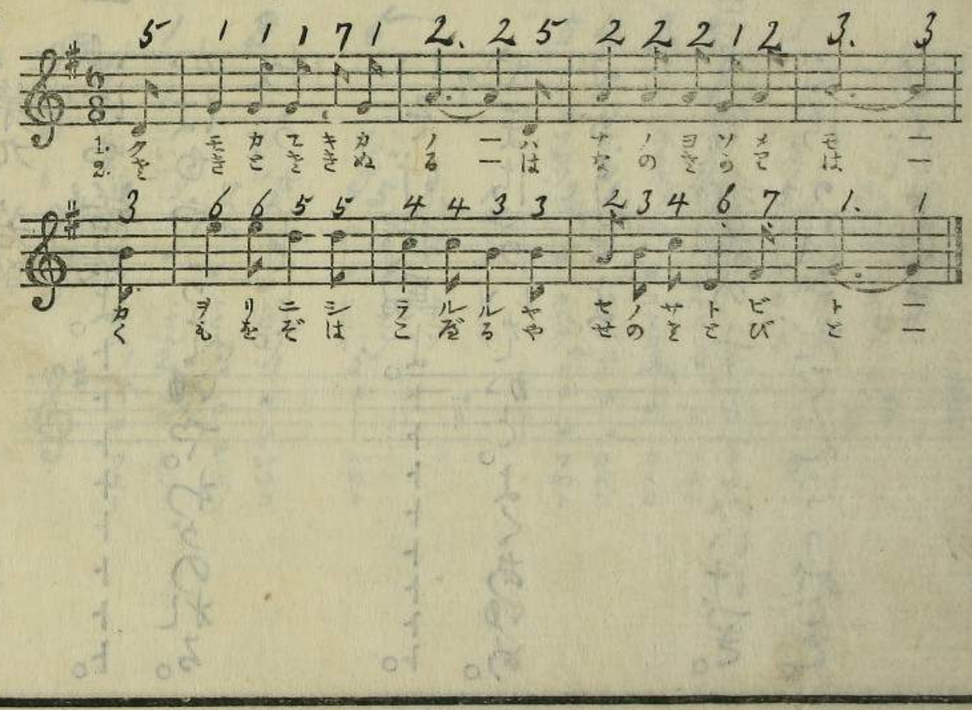
第九



第九　若駒

一　いけや若駒よ。トトトトトトトト。
かはをやこうそいゆや。わごのれる。
わこうないよ。
一　いそげ我馬よ。トトトトトトトト。
やまぢのいそかど。よくあゆめ。
こがうまよ。
三　まなち我為の。すするすみいけづき。
くちのひそだてん。こころみごと。
こうびけま。

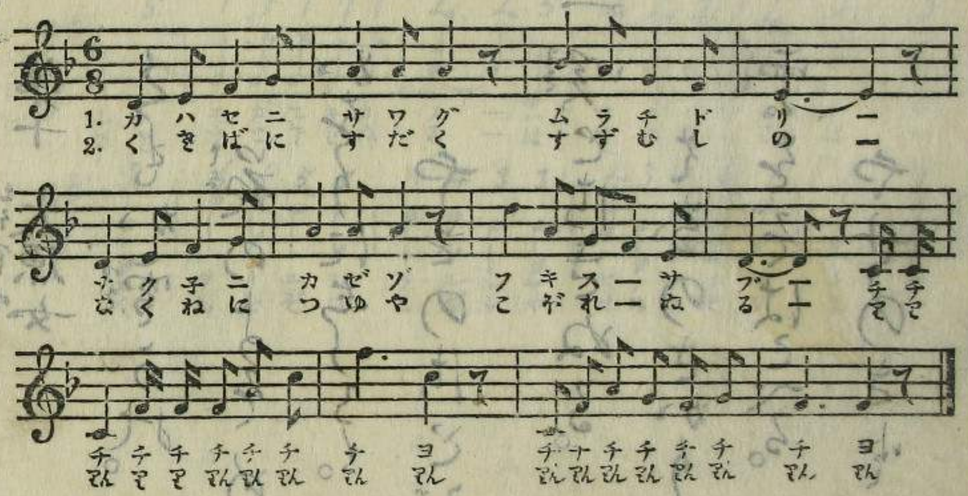
第十



第十　大原女（おはらめ）

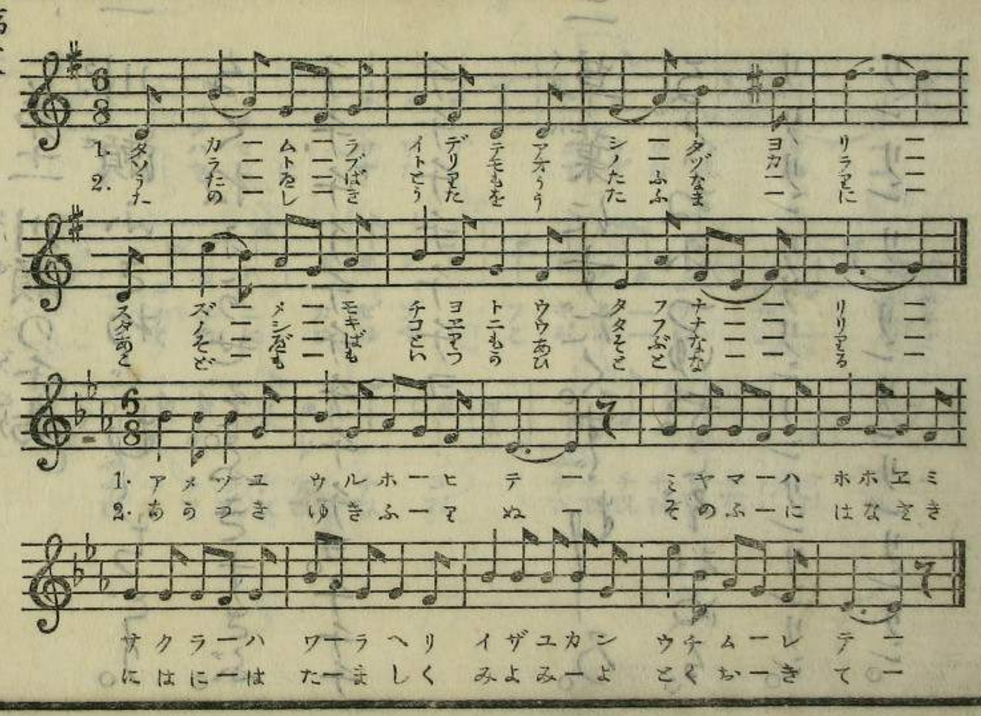
一

くもか雪（ゆき）の花（はな）のとそめを。
かをりにうつろふ。
やをのはちこびと。
二　咲（さき）とちきぬる。
そらのさかりを。
雲（くも）をそはこべる。
やせの人（びと）。

第十一

第十二　川瀬の千鳥

一　川瀬ふさわぐ。むらちどり。
ちくねふのせぞ。ふさすさぶ。
チチチチチチチチチチヨ。チチチチ
チチチチチチチチヨ。
二　草葉にすだく。すずむしろ。
ちくねふつゆや。こぞれぬる。
リリリリン　リリリリンリンリンリン。
リンリンリンリンリンリンリンリン。

第十三



第十二　竹むら

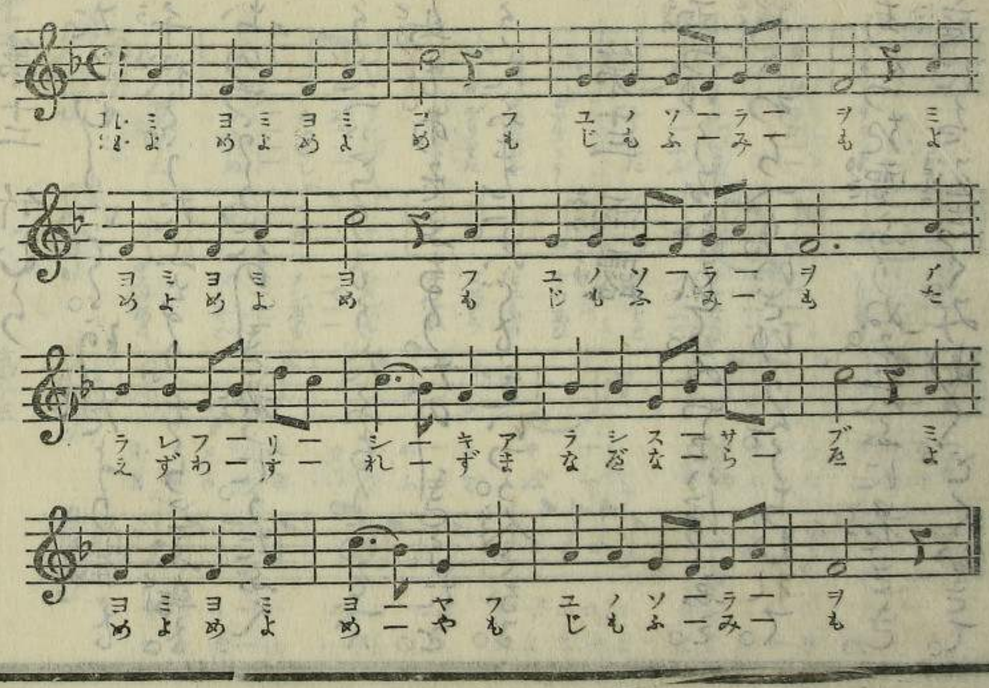
一　たうむらいでゝ。ゐのたより。雀も
千代と。うたふちう。そらことぶ鳥も。
おのづゝう。たのさかにうたふく。

二　うたへばこりもうたふちう。ゐのそばハ
鳥も。あそぶちう。たのさうたを。
うたふまたいでもきいつゝ人となる。

第十三　雨露

一　雨つゆうるふひて。みやまはるゝ。
糀ハわらへり。ゆうんうもれて。

二　あかつき雪ふりぬ。そのふにはなさき。
庭にも玉ゝく。みよ〳〵。さくおさて。



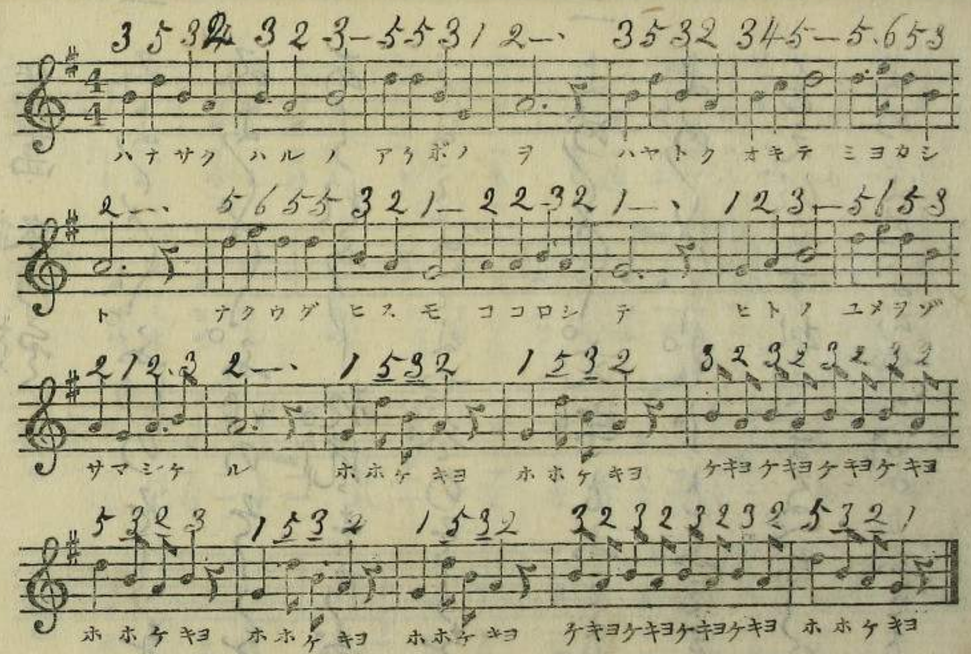
第十四　冬（ふゆ）のそら

一

みよ〳〵。ふゆのそら〳〵を。
みよ〳〵。ふゆのそら〳〵を。
あゝれふり。あゝれ嵐（あらし）を呼ぶ。
こよこよこよや。冬（ふゆ）のそら〳〵を。

二

よめ〳〵。文字（もじ）もふこも。
よめ〳〵。もじもふこを。
ゑえびとすれば。よもじもへ。
よめよめや。文字（もじ）もふこも。

第十五

第十五　花咲く春

花さくはるの。あけぼのを。
ちやとくおきて。ゑよかしと。
なくうぐひすを。こゝろにて。
人のゆめをぞ。ちまよはる。

ホーホケキヨ　ホーホケキヨ。ケキヨ、ケキヨ
ケキヨ　ケキヨ　ホーホケキヨ。ホーホケキヨ
ホーホケキヨ。ケキヨ　ケキヨ　ケキヨ　ケキヨ
ホーホケキヨ。

第十六　やよ花桜（はなざくら）

一　やよ花ざくらよ。そこつるわきをバ。
ちらすなちらすなおもへ。はくことなかれ。

二　おこもめでぬる。わきをなさらひそ。
よるひるわらべら。ゆれうごかまもる。

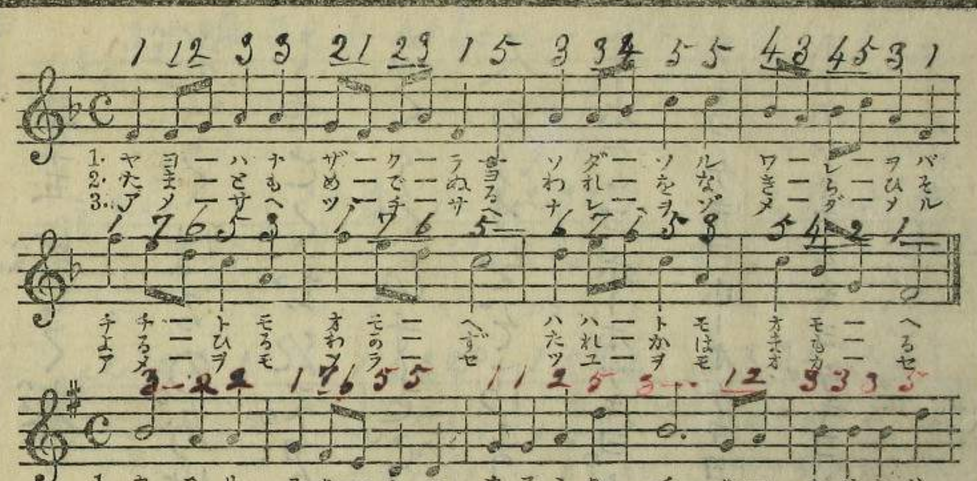
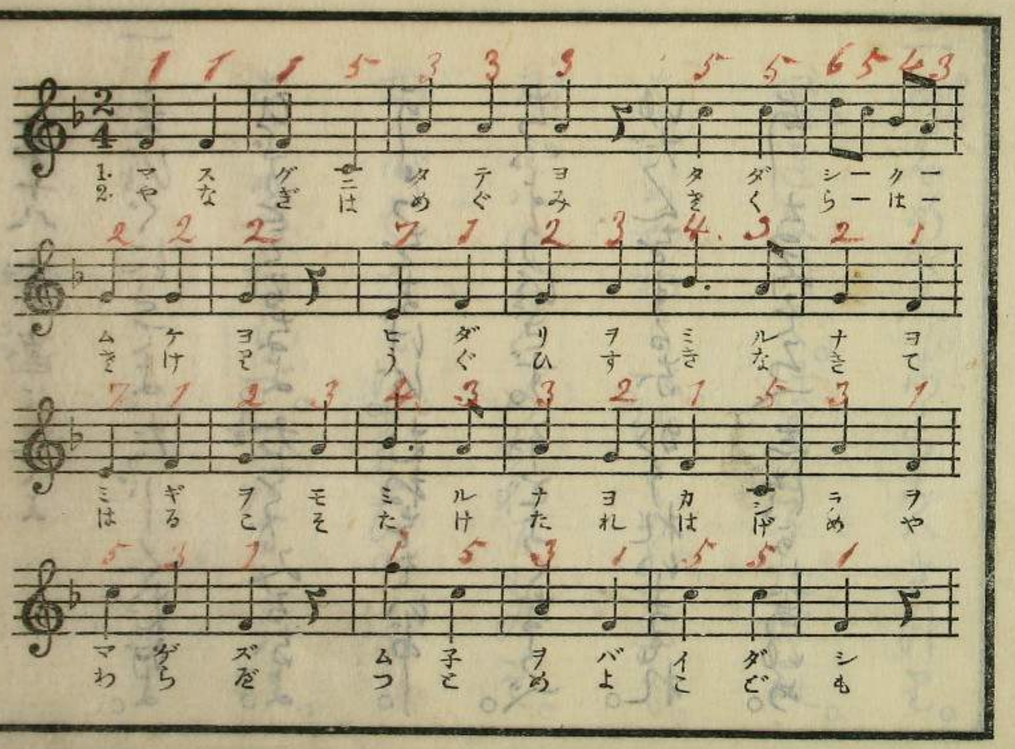
三　あめさへぎらさへ。ちるをそめぐめる。
ひめをふふうせ。つゆをもおもふ。

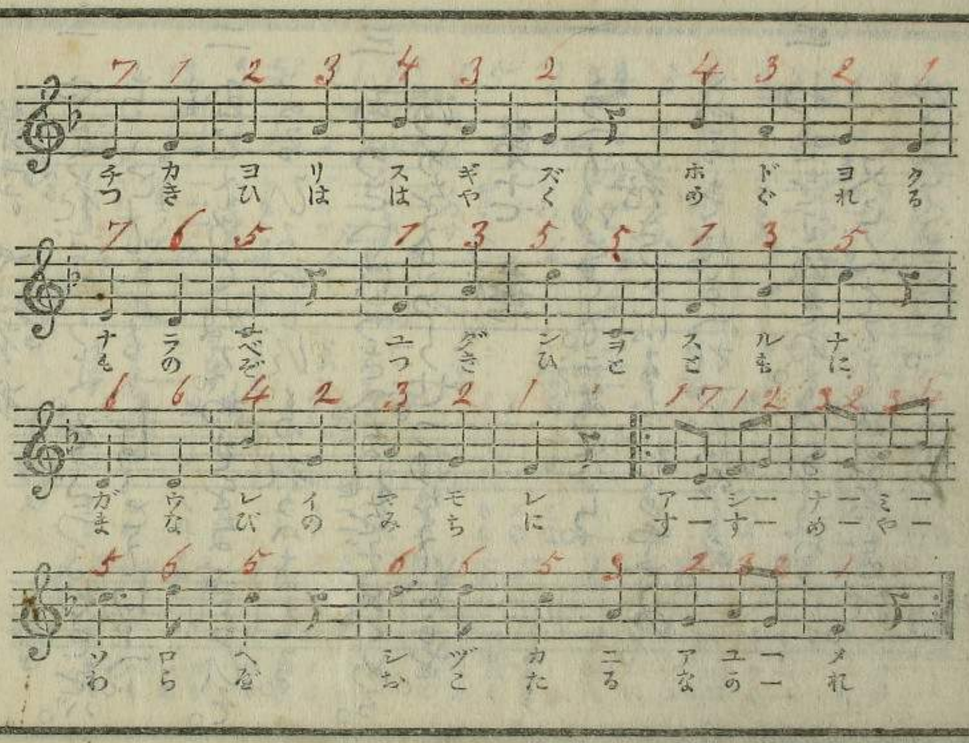
第十七　燕（つばくらめ）

一　のべりゆくとも。をゐうたち。
花（はな）さくはるを。わがやどの。
ふるすにのべれつばくらめ。

二　わををこひまめ。ものかろうバ。
又（また）こんとるも。あをやぎて。
ひとこくさたをつばくらめ。

第十六

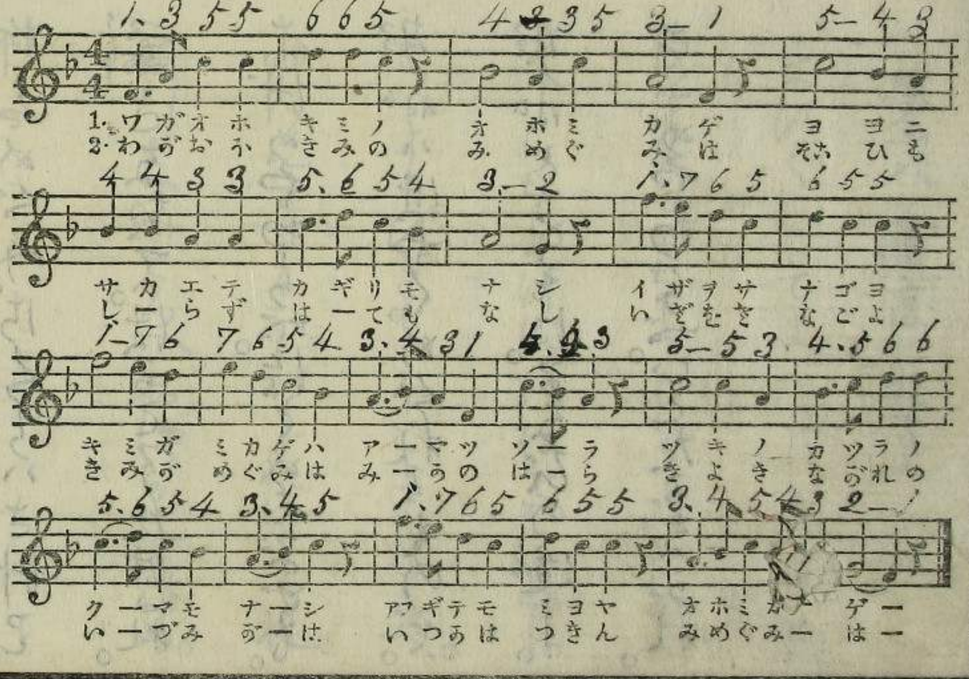


マや スな ゲぎ ミは タめ テぐ ヨみ タを ダく シーら ーークは ーー
ムさ ケけ ヨこそ ヒう ダぐ リひ ヲす ミき ルな ナき ヨて
ミは ギる ヲこ モそ ミた ルけ ナた ヨれ カは ンぜ ラめ ヲや
マわ ザら ズを ムつ 子と ヲめ バよ イこ ダど シも

チつ カき ヨひ リは スは ギや ズく ホめ ドぐ ヨれ クる
ナも ラの べぶ ユつ ゲき ーンひ ヲこ スこ ルも ナに
ガま ウな レび イの やみ モち レに アすー シすー めー ミや
ソわ ロら へな シか ヅこ カた ニろ アな ユのー メれ

第十八　真直（まっすぐ）にたてよ

一　まっすぐにたてよ。たづくむけよ。
ひづりをこるちよ。右（みぎ）をもみるちよ。
のらをまげど。むねをだいじ。
ちゐよりけざず。ふごよくなうべ。
いだんをするか。がうれいまもれ。
あ　ちみそろへ。志ばをのにあゆめ。

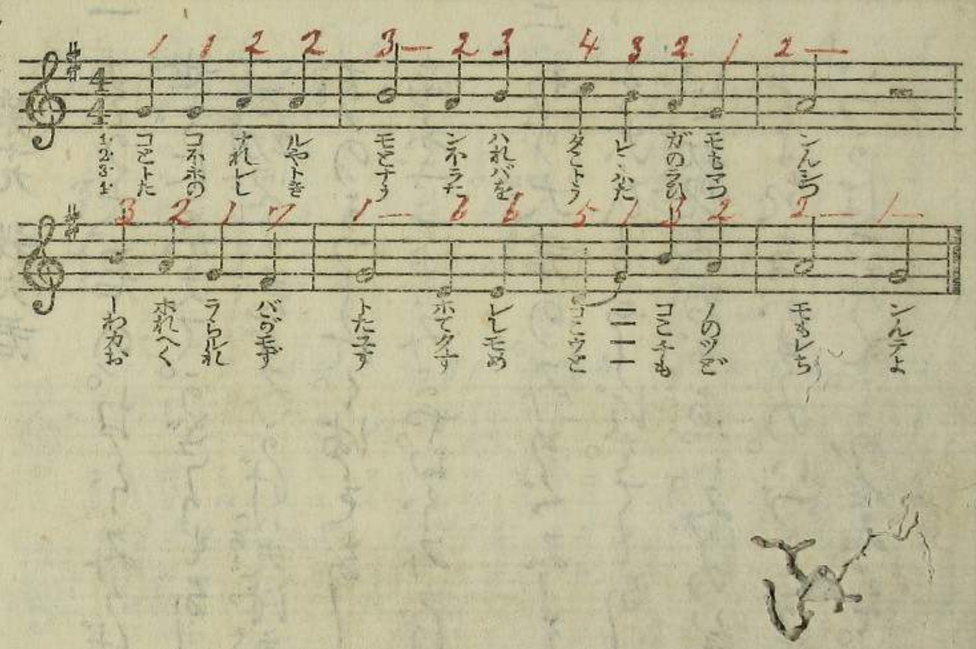
二　柳（やなぎ）をめぐみ。ちくらハさけど。
篤（あつ）きをなて。はるこうたけれ。
そげめやわらぐ。たとめよおぐる。
月（つき）はハやく。めぐれるものぞ。
月（つき）はとこもに。まるびの道（みち）。
おこめやわらぐ。おこたるなれ。

第十九

第十九　我大君

一　こゝの大君の。おほみうげ。
世々にさかえて。うごろもなし。
いざ幼児よ。まづみうげ。
月のごとく。ひさしくはをもし。
あふぎてもみよや。おほみうげ。

二　わごの大君の。みめぐみを。
そおいひもとゝて。こゝばをてもし。
いざ幼児よ。まづの恵みのいろ。
きよらちがかそのいづえ。
いつのはつちん。こめぐみぞ。

第二十



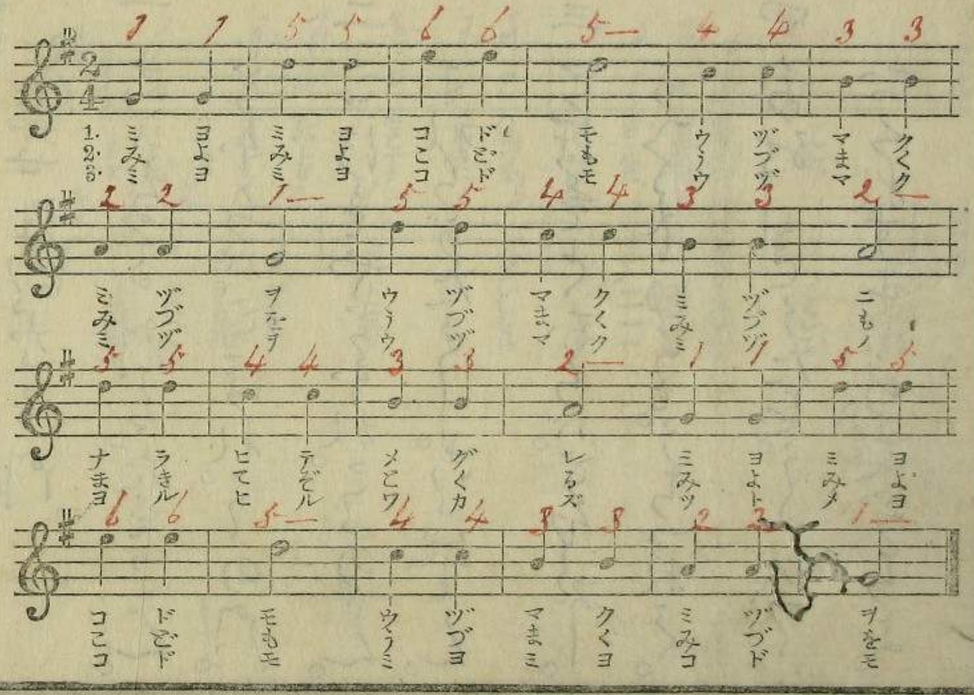
第廿一 おくれるな

一 さくちるは花ぞ。たゞさくも。
さくらバさくほどに。
二 こゝほをやこゝろ。
それらのたゝ。
三 こゝはをもらバ。
このへもゆくも。
四 ものゝさそう友を。
おくれずもろめよ。

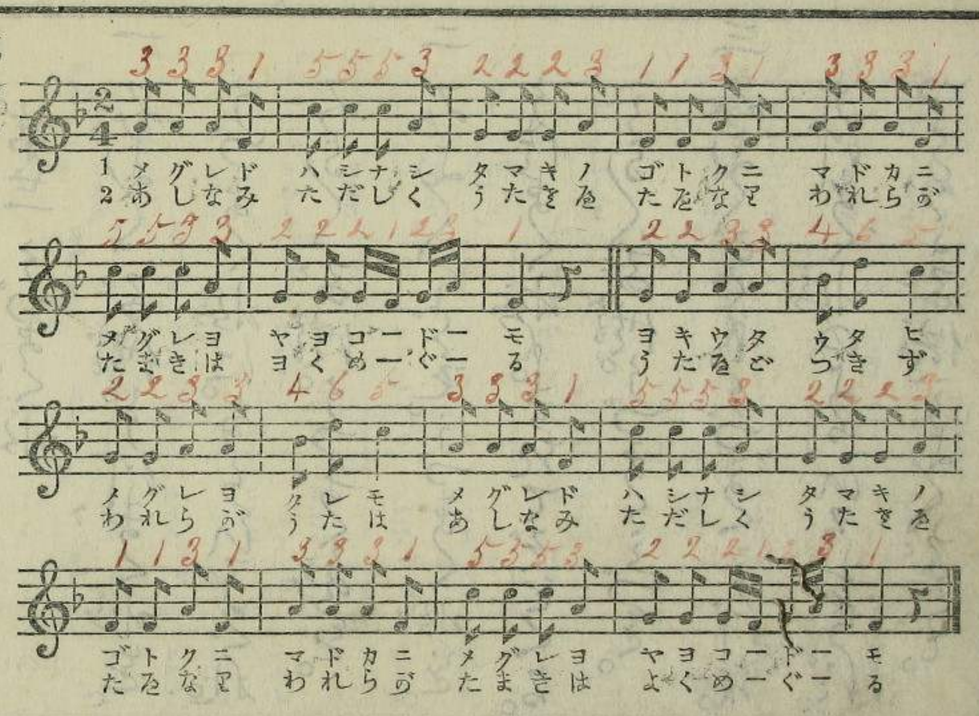
第廿一　うづまく水

一　みよくこる供。うづまく水を。
うづまく水に。ちらちらひでぞる。
みるくこる供。うづまくみを。
二　みよくこる供。うづまく水を。
うづまく水の。まわれてぞくる。
三　みよくこる供。うづまくうづを。
こるくこる供。うづまくうづを。
うづまく水の。ようにひるわうび。
つるめとぞる供。こるよくこる供。

第二十一

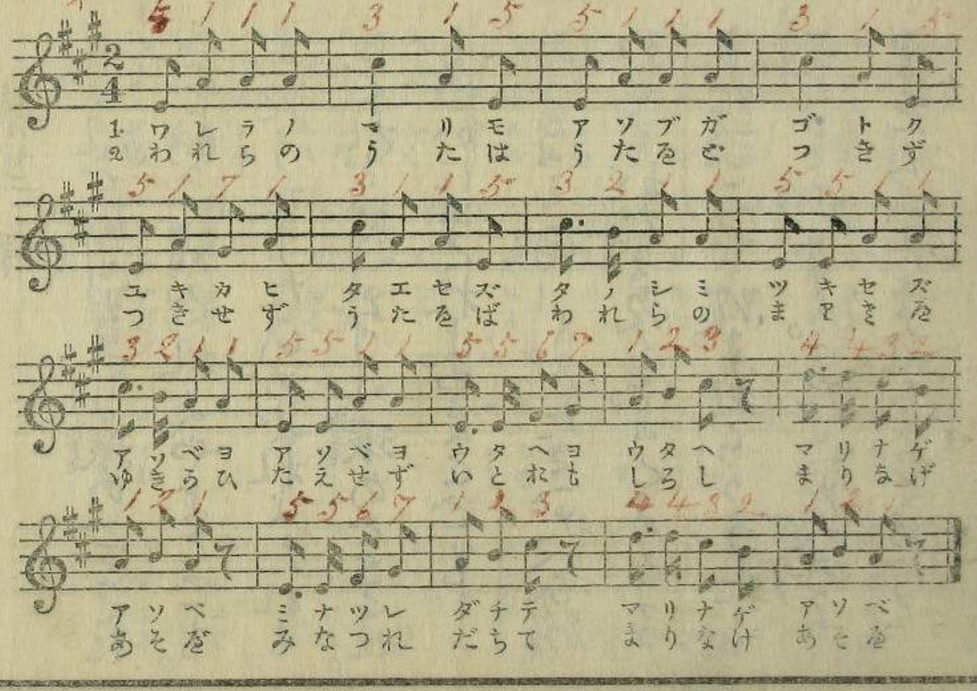


第二十二



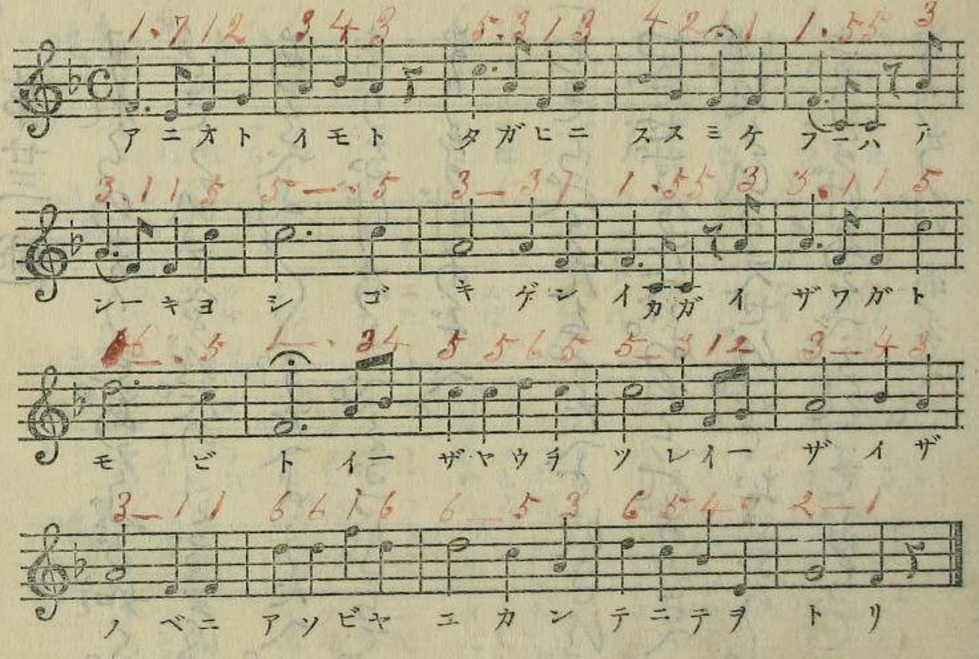
第廿三　環

一　めぐれどはーちー。環のごとくに
ここからにめぐれよ。やよここも。
よもうたうたひめぐれよたれも。
めぐれどはーちー。環のごとくに。
まどかにめぐれよ。やよここも。

二　あーちこち。両手ぐうたへちり。
わそらがたまもちをよくめぐる。
うたへごつきびよ。れらぐうたを。
足ちこぶしぐうたへちり。
こそらがたまもちをくめぐる。

第廿三　毬（まり）

一、これらのまりをあそぶが如く。
いざこうひとえをぬぎすべたのしき夢をみん。
あそべよくくうたへよくくうたへ。
二、まりおげあそべこころかつれざもて。
まりなげおげあそべ。
三、わきらにたうたへどきさば。
つきせずうたへばわれもまりさへ。
ゆたらひとえせびいくおもさろ。
まりなげあそべしつまをもちて。
まりなげおげあそべ。

第二十四



第廿四　兄弟姉妹（きょうだいしまい）

あにおといもを呼（よ）ぶ。

ゐどうひてすみ。

ろふはてんきよし。

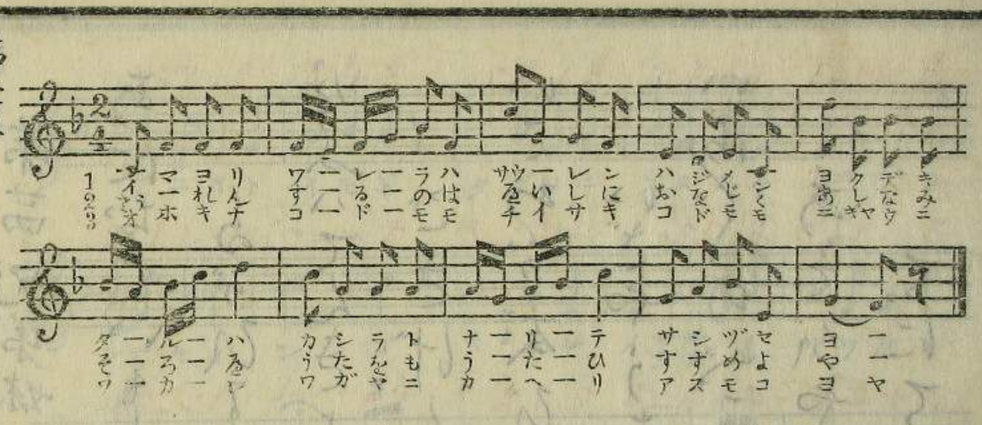
ごきげんいかがいざ。

いざわが友（とも）だちと。

いざやうらそれいざいざ。

いぢくのべにあそびやゆかん。

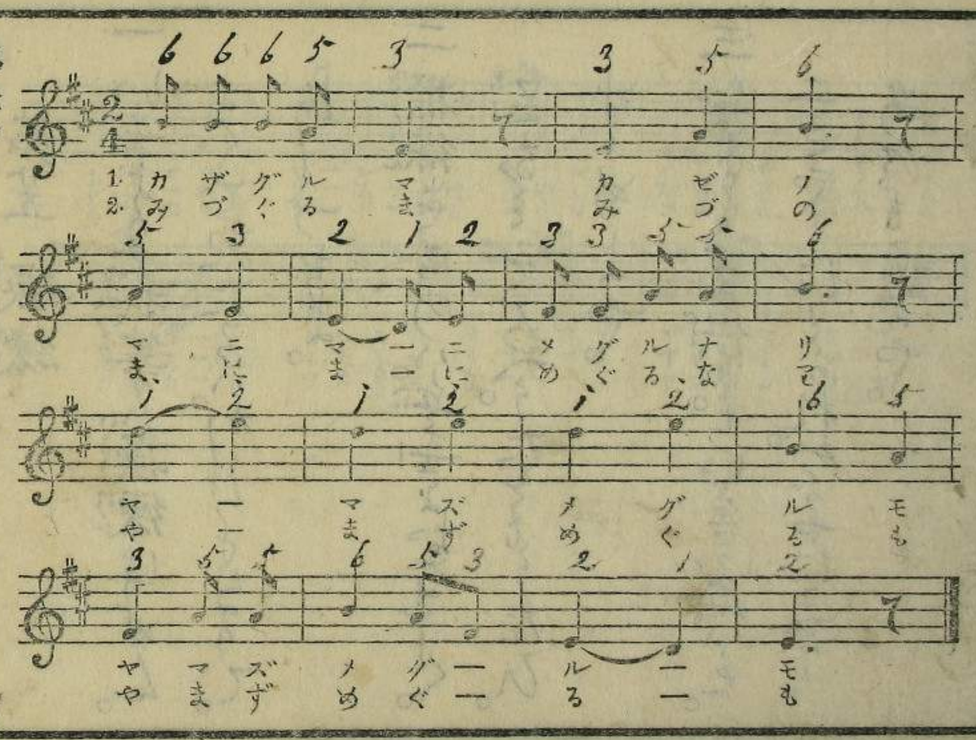
あそびやゆかんてにてをとり。

第二十五

第廿五　操練

一いまより我等は操練はじめん。
よくで覚たるハがらともちて。
ちーづきよ。

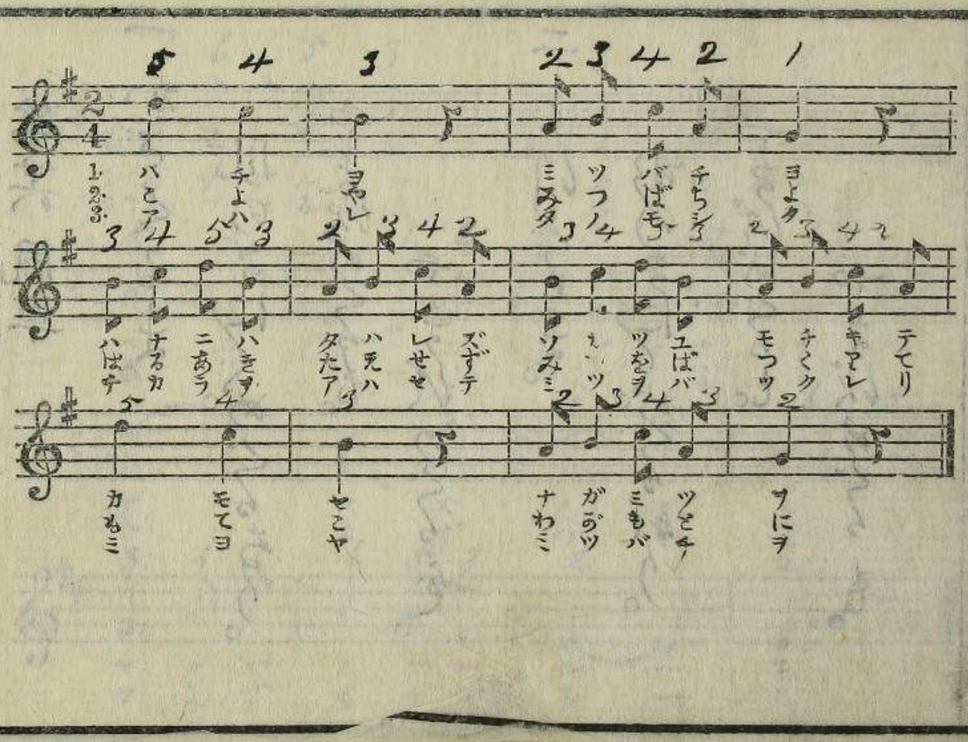
二操練そろのハ至士よおちづく。
号令そろへうたをもうたひ。
すゝめよや。

三おや兄なる供もちいさき供を。
二ぎやうにそのれわざにつかり。
あけもことよや。

第廿六

第廿六　風車（かざぐるま）

一　かざぐるま。
　風のまにまに　めぐるもの。
　やまびめぐるも。
　やまびめぐるを。
　やまびめぐるも。

二　こげぐるま。
　氷のまにまに　めぐるもの。
　やまびめぐるも。
　やまびめぐるを。
　やまびめぐるも。

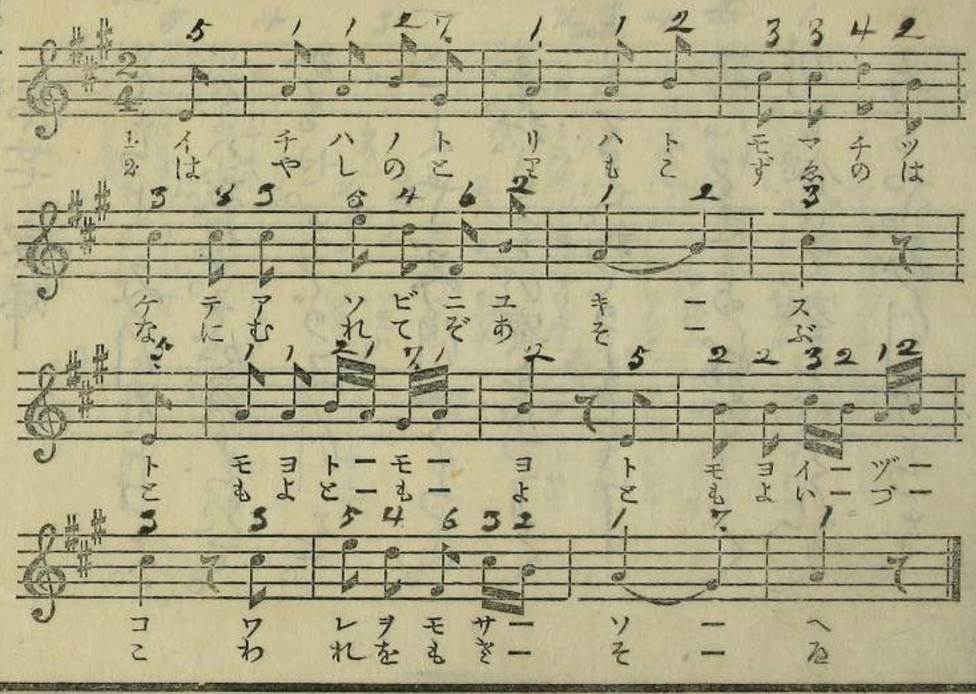
第廿七

第廿七　蜜蜂（みつばち）

一　そちよ　みつばちよ。
　花（はな）の　蕊（しべ）を　探（さぐ）れ。そが　蜜（みつ）を　持（もち）て。
　かもせ。もてこの　みつを。

二　こよや　みつばちよ。
　集（あつ）めこえさび。蜜（みつ）をばつくる。
　もてこ。わづのもとを。

三　あはきこの　花（はな）を　かを　合（あは）せて。蜜（みつ）をばつくれり。
　みるや。みつばちを。

第二六



第廿八　一羽の鳥

一

一羽の鳥は友待つけて。
あそびてゆきぬ。
こもよく。ふもよいづこ。
ゆきをもちそへ。

二

林の鳥もこびるの花よ。
むれてぞあそぶ。
こもよく。ふもよいづこ。
わきをもさそへ。

第廿九　數へうた

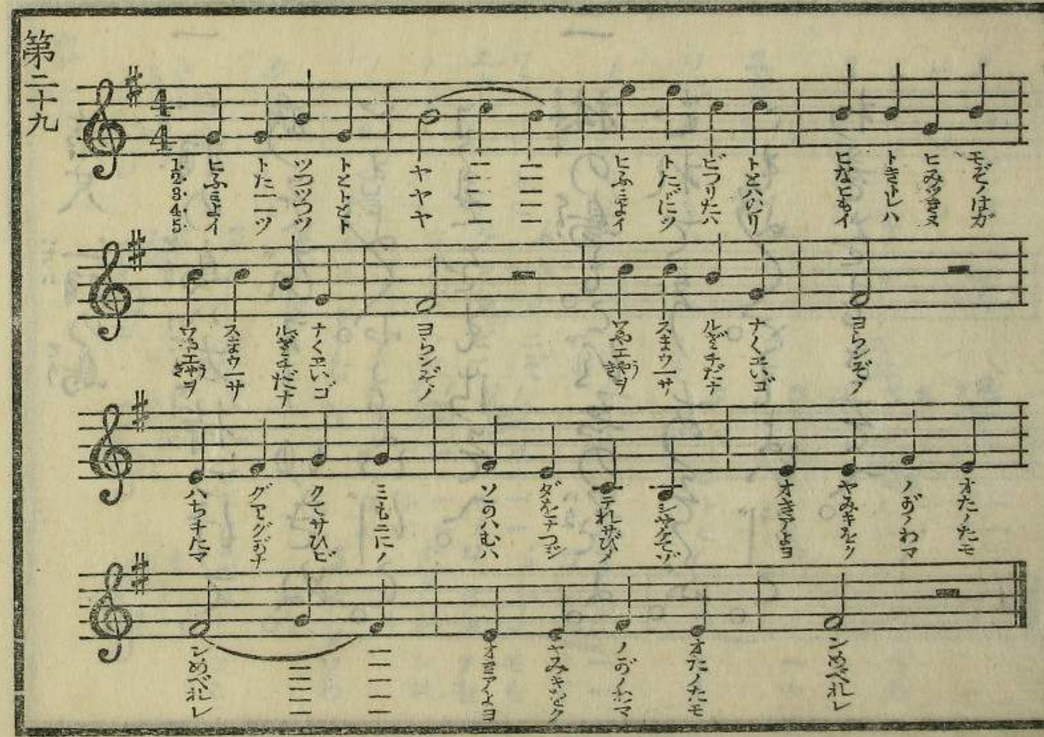
一　一つとや。人〳〵一日も。忘るゝな。よ〳〵〳〵。
はぐゝみそだてゝ。
おやのおん。おやのおん。

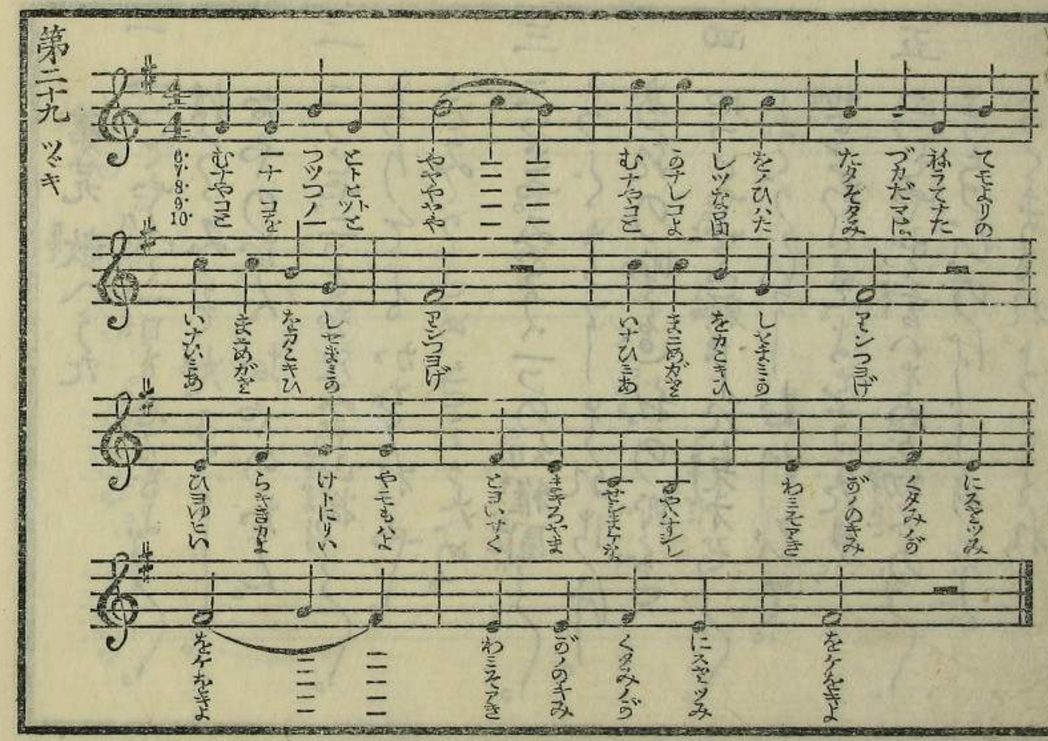
二　二つとや。二つとかたみぞ。山撫子〳〵。
ちりてもかをれや。
きみごゝろ。きみごゝろため。

三　三つとや。みどり〳〵一つの。幼稚園〳〵。
もちぐさそだてゝ。
あれの聲〳〵。あれの聲〳〵。

四　四つとや。世ふ頼母(たのも)れ。兄弟ぞ〳〵。
むつまじくして。
世をわたるべよ。世をわたるべよ。

五　五つとや。いつ言いそめぬ。幼なの〳〵。
まもりびのはげめ。
よくまもれ。よくまもれ。

第二十九

第二十九　ツゞキ



第廿九　同つゞき

六　六つとや。昔をたづねて今うをもりく。
ひらけやまやまま勢や。
るくの國を。るくのくふを。

七　七つとや。そつの夏。孫さみよく。
よもたそそよきひこうさま 卿そ。
永のたびぢ。こうのふすけ。

八　八つとや。芳ひそぐてよ。姫小松。
ゆきてをいろいろます。
そのみさをぞそのこ汚我。

九　九つとや。心をまもり。孫さみよく。
ひこうさもや。やけく。
秋の月。あもりの月。

十　十とや。そよくみふさの名日ぐみ。
いよく〳〵ろさよおく。
さみどのみち。なこがぐみよ。

明治二十年七月五日出版版權届
同　年十二月　出版
文部省編輯局藏版

眞野實藏

定價金八錢

音樂問答　全一冊　定價金三拾七錢
樂典　全一冊　定價金壹圓拾五錢
音樂指南　全一冊　定價金四拾八錢
小學唱歌集　全三冊　定價金二拾九錢九厘
唱歌掛圖　全二編　初篇定價金貳圓四十四錢　續篇定價金壹圓五十錢　二篇定價金貳圓廿壹錢